

指揮者として多忙をきわめたマーラーは、オフタイムも勤勉だった。ハンブルク市立劇場首席指揮者時代は、ザルツブルク近郊の避暑地シュタインバッハに作曲小屋をつくって、規則正しく創造的な生活を送り、充実した作品群を生み出した。「世界一長大な交響曲」として一時期ギネスブックに認定されていたほどの巨大な規模をもつ《交響曲第3番》は、湖畔にひろがる自然のエネルギーを吸収することなくしては生まれなかったに違いない。

A 2025, MAY
[第2036回]

オーケストラで森羅万象を描きつくす

グスタフ・マーラー

Gustav Mahler (1860–1911)

マーラーの作品は、オーケストラによって
森羅万象を表現つくそうという
創意に満ちている

イラストレーション: ©IKE

マーラーと自然

マーラーの時代、ドイツではワグナーフォーゲル運動がおこなうなど、自然回帰の動きがさかんだった。マーラーもまた、休暇を自然のなかで過ごすことで創作意欲を養った。現代で言えばオンもオフも充実させるパワー・ビジネスパーソンの二拠点生活といったところだろうか。

